

# 記念講演会・ラボラトリーツアーを開催

10月3日、都産技研は江東区青海での本部開設1周年を迎えました。これを記念して「記念講演会・ラボラトリーツアー」を開催し、約300名のお客さまにお越しいただきました。

**記念講演** 都産技研・片岡理事長の開会挨拶に続き、国立科学博物館の鈴木一義氏による「ものづくりイノベーションの実現に向けて」と題した記念講演を行いました。

## 開会挨拶

都産技研の現在の利用状況などを報告した後、「全国的に震災からの復興が急がれる中で、円高や電気料金の値上げ、国際関係の緊張など、日本の経済状況は依然として厳しい。その状況を打破し、経済を回復させるには中小企業の力なくしてはあり得ません。ぜひ都産技研の支援事業をご利用いただき、経済を盛り立ててほしい。」と述べました。



理事長 片岡 正俊

は中小企業の力なくしてはあり得ません。ぜひ都産技研の支援事業をご利用いただき、経済を盛り立ててほしい。」と述べました。

## 記念講演「ものづくりイノベーションの実現に向けて」



国立科学博物館  
理工学研究部  
科学技術史グループ長  
鈴木 一義 氏

### Profile

日本の科学技術の発展過程の研究に長年携わり、特に江戸時代から現代にかけての科学・技術の発展状況を実証的な見地で調査・研究に従事。経済産業省「ロボット大賞」、「ものづくり日本大賞」などの選考委員や多数の展示監修委員を歴任。

江戸時代から伝わる、日本古来の科学・技術の紹介をはじめ、「ものづくり日本大賞」など多くの賞の選考委員としてかかわる中で見えた、近年注目すべき製品化事例などを多く紹介。常に「オンリーワン」を追求してきた日本のものづくりの歴史を再確認するとともに、ほかの技術分野との連携や、組み合わせによって新たなイノベーションにも期待できることを事例を持って示していただきました。「ものづくりがどうあるべきか、次世代に伝えるのが私の役目」と語る鈴木氏は、「つくるものに魂を入れるのが世界も認める日本流のものづくり。企業の皆さんはぜひ自信を持って、明るい笑顔でものづくりをしてください!」と激励し、講演を締めくくりました。



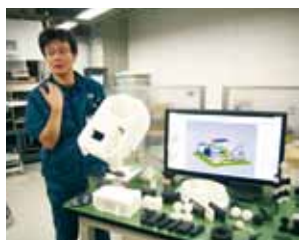
記念講演会

## ラボラトリーツアー

実験や実演を通じて、都産技研の研究成果を紹介する見学ツアーを行いました。また、都産技研が対応する技術分野を紹介するパネル展示、本部周辺を見学する東京ゲートブリッジツアーも実施しました。ここではその一部をご紹介します。

### 売れるものづくり

システムデザインセクターでは、「売れるものづくり」のために商品企画から、試作、販売促進までを一貫して支援しています。今回の見学では、3階の高速造形室、デザイン支援室、創作実験ギャラリーを開放し、三次元デジタルやRP装置の実演、TROBOTを使った案内ロボットや売れる商品づくり、ブランド確立支援についてご紹介しました。



高速造形室

### 実証実験



製品強度実験室

実証試験セクターでは、信頼性評価、故障解析、動作解析、環境試験などを行い、高品質・高性能な製品開発をサポートしています。1階の製品強度実験室では、金属材料の引張破壊試験、製品の衝撃特性評価試験の実演、2階の環境試験室では、身近な家電製品を使って静電気放電試験や瞬時停電試験などの実演を行いました。



実演を行いました。

### パネル展示

東京イノベーションハブ(本部 2階)では、都産技研の研究成果や技術シーズを紹介するパネル展示のほか、都産技研と都内中小企業との共同研究で生まれた製品(ECO経木モバイル木工工作キット・自然素材100%の成形材料サスティモ®を使った新世代漆器「ときうるし」・モバイルプロジェクタースクリーン・三宅ガラスジュエリー)の展示・即売会を行いました。また、1階エントランスでは、次世代自動車技術研究会によるEV車の展示や、多摩テクノプラザで制作した燃料電池駆動電気自動車「エコノムーブ」の展示も行い、多くのお客さまがご覧になりました。



東京イノベーションハブでの展示

### 東京ゲートブリッジツアー

都産技研本部の周辺をバスで巡り、東京ゲートブリッジを渡るツアー。あいにくの雨模様にもかかわらず、約180名の方が参加されました。



ゲートブリッジから見える東京湾の眺め